嘉永七寅十一月四日五ッ半時震

嘉永七寅十一月五日暮六ッ時

大坂川口大地しん津なみ混雑記

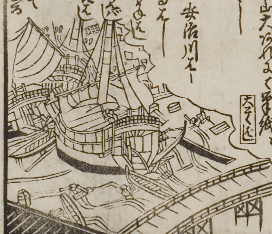
摂津大地震 二編

ざこば絵るとうろうづる
いかり石とうろう 日かびのぎしき
新町東扇やぎしき
堀きやうしどまん 七八りん
うんざ安如ど つうろぎどう
ちんまめりん象どう
東清水 少ノ辻 角
四天王寺 ゐろどう
こゝ半常の薬さて石
諸堂大そんじ

新田きんへんくうろ
本清舟しき土蔵そんぢる
そのやちし出小ゝうしちかなくされ
清任ちし南つかれうしるゝい
所とかまや手外とうゝみやそんじ
よろ所浄むど あらうくうれ
ちうちらし上石 いこける
梅ちう村家くずれ 出火に
諸つうもそつ然に 怪我人あり
その筋すゝしそ 大きいぎ
去ル七ツ彩出 くづれる
西みやあさ 大坂町ぐん

奈良春日

社 町家 大くづれ
寺院 全とう ろう
くずれ蔵

于時嘉永七寅十一月五日夜七ッ半時大地震同暮六ッ時又大坂天保山沖安治川木津川尻辺大ほあれして沖の大船等石積以下三百石そろねいろ返しとく川に新宅しく又ハ海岸に上るもあり川岸なぎ家も舟もおしてなし船どもかさなりし溺死よ屋根も数しれず外土蔵等船小舟或は大船の下敷となり溺死の其数幾千とも知れず又所内より舟にて地しんを避けんと伴へこぞりし又ハ内川まつるぞ舟も川もあまりて波矢よりも早くして追くるゝなれつゝ其数多くの舟も打こわれ舟くだけ人死ゆるすおびたゞしく又橋々を帆柱ちら大船の為におしくだかれ欄干も動きん見聞するの目もあてられぬ事なり誠ハ実に古今稀成の大変なりし新田天保山大ぢれにて其外

落橋
かめ井ばし 安治川ばし
亀橋 高橋
水分ばし 高屋ばし
日吉ばし 汐見ばし
幸ばし 住吉ばし
金屋ばし
大黒ばしそ よ海